

令和6年1月26日
千葉県文化芸術推進懇談会
(第3回)

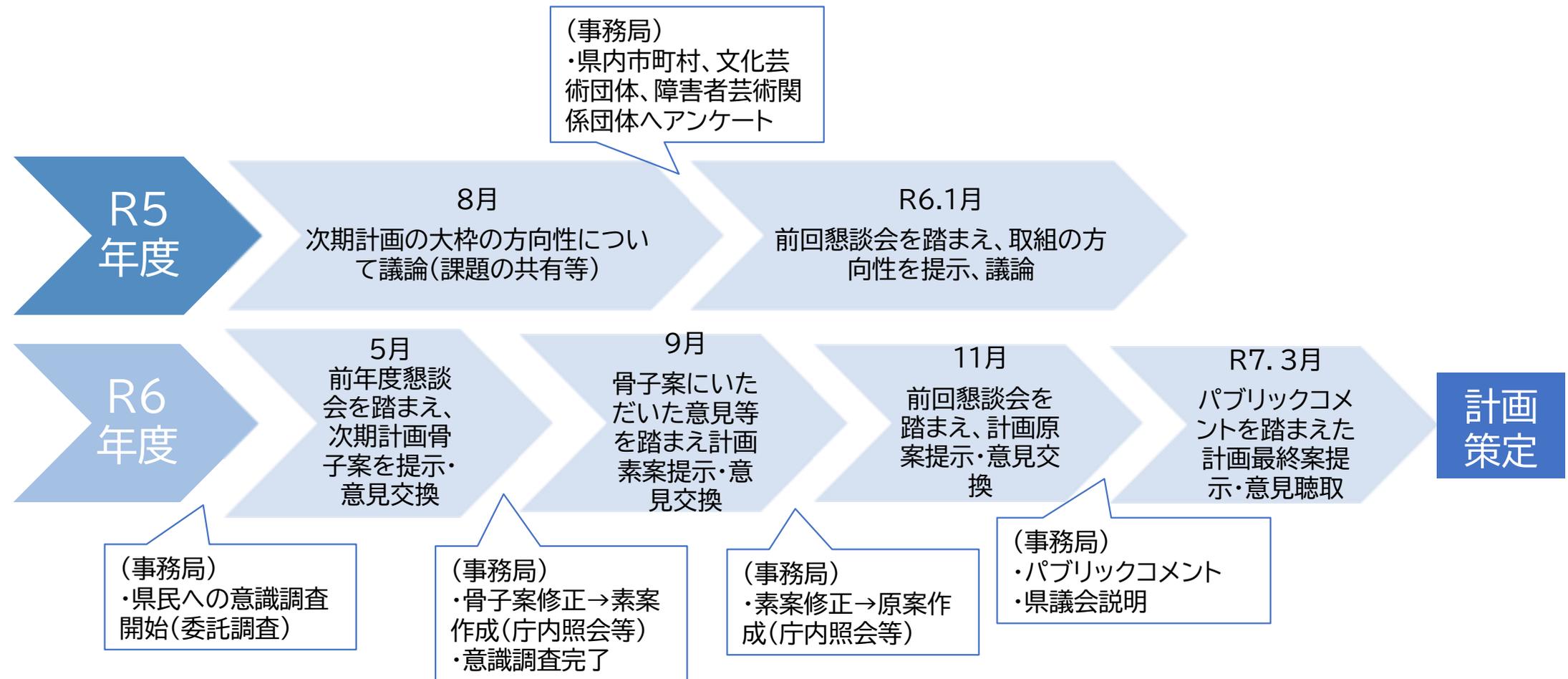
次期「千葉県文化芸術推進基本計画」の策定について (資料1 取組の方向性)

千葉県文化振興課



次期計画策定に向けた懇談会のプロセス

今年度については懇談会を2回開催。
令和6年度は懇談会を4回程度開催し、計画策定まで行う。



前回懇談会での意見等

- 文化や伝統芸能を含めた文化に携わっている団体や関係者など関係業界の方々の意見収集、県民の意識・行動調査のような情報のすくい上げは、いつどういう形で行うのか。
- 千葉らしさ、千葉の特色を簡素に表現できるものを検討することが今後の大きな方向性に繋がるのでは。
- 災害やコロナの経験から、アートは励みになる・表現することで次の力が湧くという要素もあることが障害者芸術の理解を深める上でのヒントになるのでは。
- 世界の潮流として、文化芸術分野においても環境負荷の低減(ゼロカーボン・ハーフカーボン)が使命となりつつあることを意識する。
- 多様性を認め合うこと、寛容さを作り出すことによって文化そのものの価値、それが波及する効果という価値も認めていく必要がある。

前回懇談会での意見等

- 世の中で一番大きい流れは人口縮退と高齢化。高齢者がどう心豊かに幸せに暮らしていけるかというのも少し盛り込む必要があるのではないか。
- 計画を作ったとして、県がすべてやれるということではないので、関係の自治体や民間、NPO等との役割分担が重要。
- 千葉県は資源が多いが共有されていない、それぞれ点でしか動いていないことが課題。他の分野との連携により点を線に繋げ、拠点やまちづくりに繋げることも考える。
- 文化施設だけでなく、様々な団体等が有機的に結びつきながらまちづくりに繋がっていくというのが、これから千葉県が進む姿・文化芸術分野が進む大きな方向性。

次期計画策定にあたってのアンケート

- 次期計画策定にあたっての参考とするため、県内市町村、文化芸術団体、障害者芸術関係団体に対しアンケート
- 調査期間 令和5年10月中旬～11月下旬
- 調査対象

市町村: 県内54市町村の文化行政主管課

文化芸術団体: 千葉県芸術文化協議会加盟団体(県域、市町村域)及び千葉県美術会、千葉県博物館協会、千葉県文化財保護協会(計59団体)

障害者芸術関係団体: 千葉県文化振興財団及び千葉県障害者芸術文化活動支援センターと関りのあった障害者福祉事業所等(計60団体)

次期計画策定にあたってのアンケート

- 回答率

市町村:100%(54/54市町村)

文化芸術団体:72.9%(43/59団体)

障害者芸術関係団体:65%(39/60団体)

アンケート結果(市町村)

※詳細は、参考資料1を参照

1. 文化振興のための条例を制定している市町村数
前回調査時※と変わりなし(2市→2市)
2. 文化振興全般を規定する計画や指針等を策定している市町村
前回調査時より3市増加(11市町→14市町)

※前回調査時…H27年度

アンケート結果(文化芸術団体)

※詳細は、参考資料2を参照

1. 前回調査時※よりも、全体的に会員数が減少し、平均年齢は上がっている
2. 新型コロナウイルス感染症による行動制限等(以下、「コロナ」という。)があったためか、2. 成果発表会の実施頻度、3. 会員以外の方の参加受付有無や、11. 後継者育成のための事業や活動については、実施頻度や「実施して(受け付けて)いる」の回答率が下がっている(項目2)
3. 他ジャンルとの交流を行っている団体の割合は、前回より増えている(項目12)
4. 今後担っていきたい役割については、「子どもたちへの文化芸術の普及、教育」が前回同様、最も回答割合が高かった。また、今回は「若手芸術家・文化人の確保、育成」よりも「公演、展覧会などの発表の機会の充実」が上回った(項目14)
5. 課題や悩み事は「会員の高齢化、若手後継者不足」に関するものや、コロナの影響を受けたもの(発表の場の不足、コロナ禍で停滞した文化芸術活動をいかに活性化させるか)が多かった(項目15)
6. ちば文化でイメージするものとしては、都市部にありながら海や里山などの自然に溢れていること、そこから派生する文化芸術についての回答が多かった(項目16)
7. コロナによって86%の団体が活動が変化したと回答した(主に構成団体の解散、活動休止や、活動方法の変化に関する内容)(項目17)

アンケート結果(障害者芸術関係団体)

1. 障害者芸術活動を行っている団体の種類としては、「障害福祉サービス事業所」が最も多い(項目1)
2. 障害者芸術活動を行っている団体のうち89.7%が利用者による文化芸術活動を実施しており、そのうち「鑑賞」に関わる活動を行っているのは85.7%と最も多い(項目6)
3. 文化芸術活動を実施する際に協力してもらう機関は「ボランティア」が33.3%と最も多く、国や県が設置する「障害者芸術文化活動支援センター等」は12項目中6位の20.5%であった(項目8)
4. 文化芸術活動を推進していくための課題は「文化芸術活動に関する支援や情報が障害者本人に十分届いていないこと」が56.4%と最も多い(項目9)
5. 文化芸術振興のため県に求めることとしては「アウトリーチ活動による鑑賞機会の提供」38.5%、「同活動による体験機会の提供」33.3%が多く挙げられた(項目10)

第65回県政世論調査の結果について

- 現計画の基本指標等の実績を調査するため、例年県政世論調査を利用している。
- 令和5年度の県政世論調査(第65回)における調査結果(1月23日発表)は以下のとおり。
- すべての項目において実績値が上昇しており、「この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合」は目標値を上回った。

項目	指標	目標 (6年度)	実績		
			(3年度)	(4年度)	(5年度)
基本指標 【目指す姿】	この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 (オンラインでの鑑賞を含む)	75.0%	71.8%	74.0%	76.7%
	この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある県民の割合(オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	50.0%	—	24.3%	28.0%
施策の柱5	文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	—	19.7%	22.1%

その他…「県政への要望(県政全般について今後特に力を入れてほしいと思うこと)」において、「芸術・文化活動を振興する」は37項目中30位(2.8%)であり、そのうち一番要望が多かったものは「文化・芸術に触れる機会の拡充(25.0%)」であった。

次期計画の方向性

- 現計画の指標について、「文化芸術を鑑賞した県民の割合」は目標値を達成見込みだが、「鑑賞を除く文化芸術活動をした県民」「文化芸術に触れ取り組む環境が整っていると感じる県民」の割合は目標値の半分程度。

→現計画の要素は「文化芸術に親しむ人づくり・環境づくり」、「伝統文化・文化財の保存継承、活用」、「文化芸術全般の振興」、「地域等との連携」となっており、その要素を大切にしつつ、直近の文化芸術を取り巻く社会情勢の変化や、これまでの文化施策の進捗状況、将来に向けた具体的な課題と対応を盛り込む。

また、鑑賞環境の維持はもちろん、今後は活動(表現)するための環境整備にも力を入れる必要がある。



環境づくり

次期計画の方向性

- 子ども・若者だけでなく、高齢化社会への対応、多様性への取組についても言及が必要
 - 現計画では、子ども・若者から子供を持つ保護者や高齢者、障害者、外国人などを包括して「あらゆる人々」と称していた。今年度制定された県多様性条例や、千葉県障害者文化芸術活動推進計画とも整合性のとれた計画とする。  

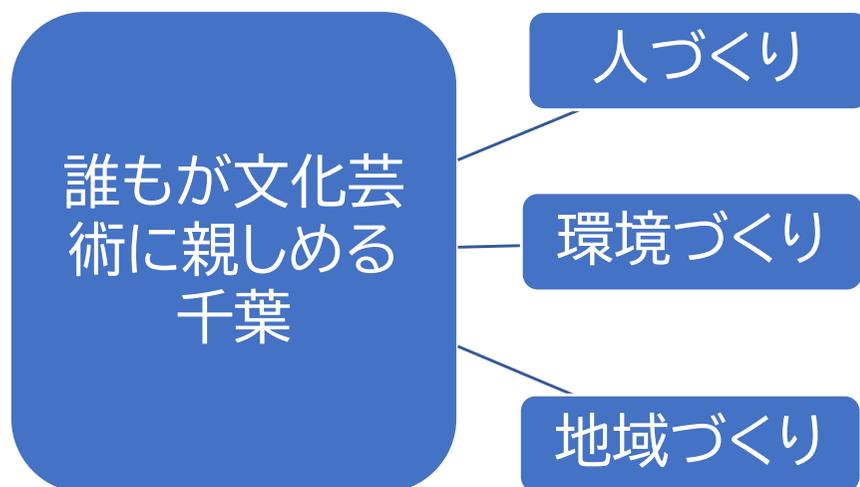
- 前回懇談会において、他の分野との連携・様々な団体との結びつきを通じ、文化芸術とまちづくりが繋がっていくこと、県と関係団体(自治体、NPO等)との役割分担が重要であるとの意見があった
 - 現計画でも他分野・団体との連携については施策の柱3で取り上げているところだが、今後更に力を入れる必要がある。  

次期計画の考え方

「方向性」から導き出される要素(人づくり、環境づくり、地域づくり)を、次期計画の3つの視点とする

【目指す姿】

※総合計画より



【視点】

「目指す姿」の実現に向け必要な視点



【施策の柱】

何を行いたいのか

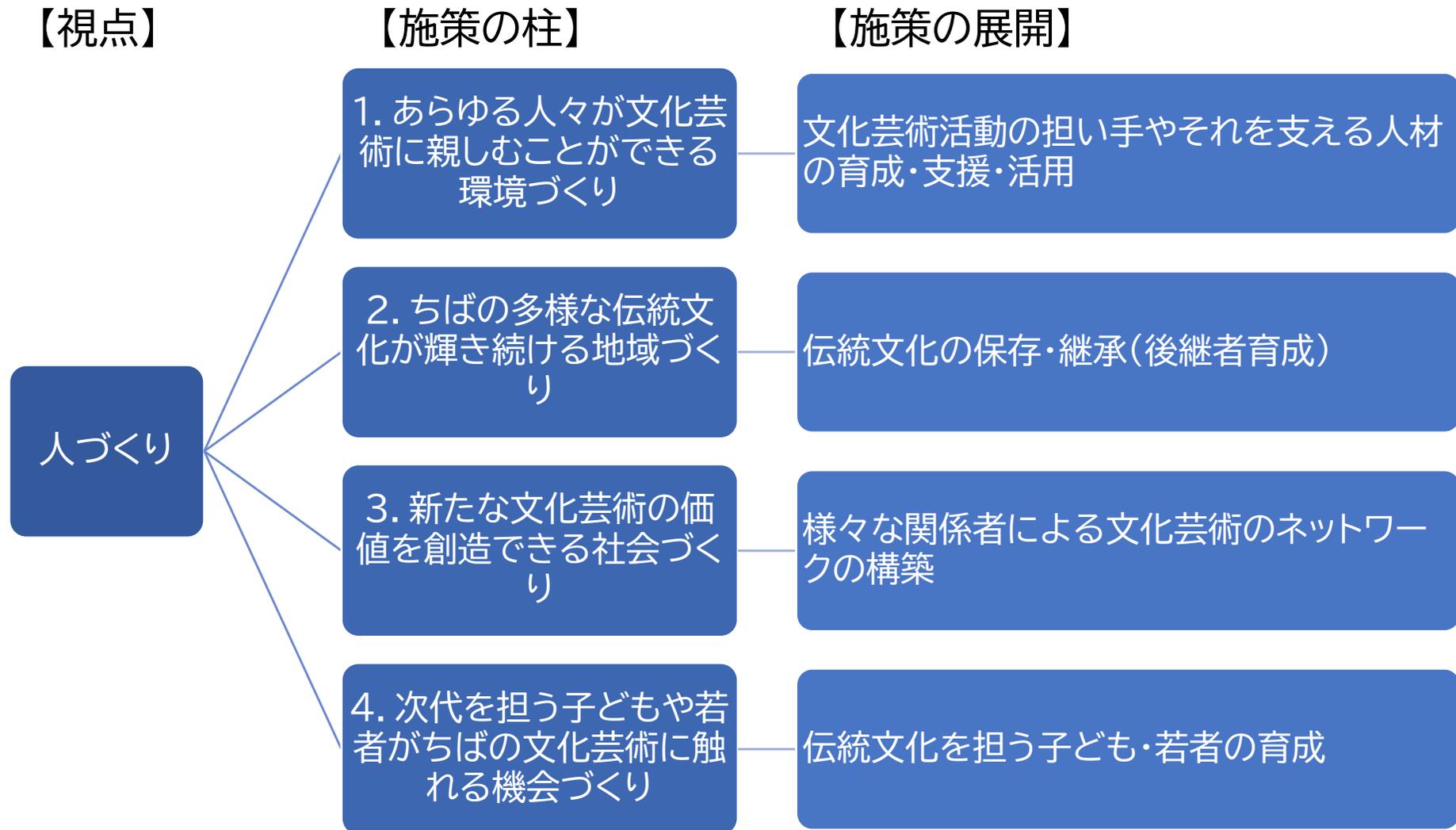
- あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり 人づくり・環境づくり
- ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり 伝統文化・文化財の保存継承、活用
- 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり（連携） 地域等との連携
- 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり 人づくり・環境づくり
- ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信 文化芸術全般の振興

※施策の柱の内容は、現計画のものを記載している（仮置き）

…現計画の要素 (P.10)

次期計画の考え方

各視点と「施策の柱」「展開」を対照させると、以下のとおり。



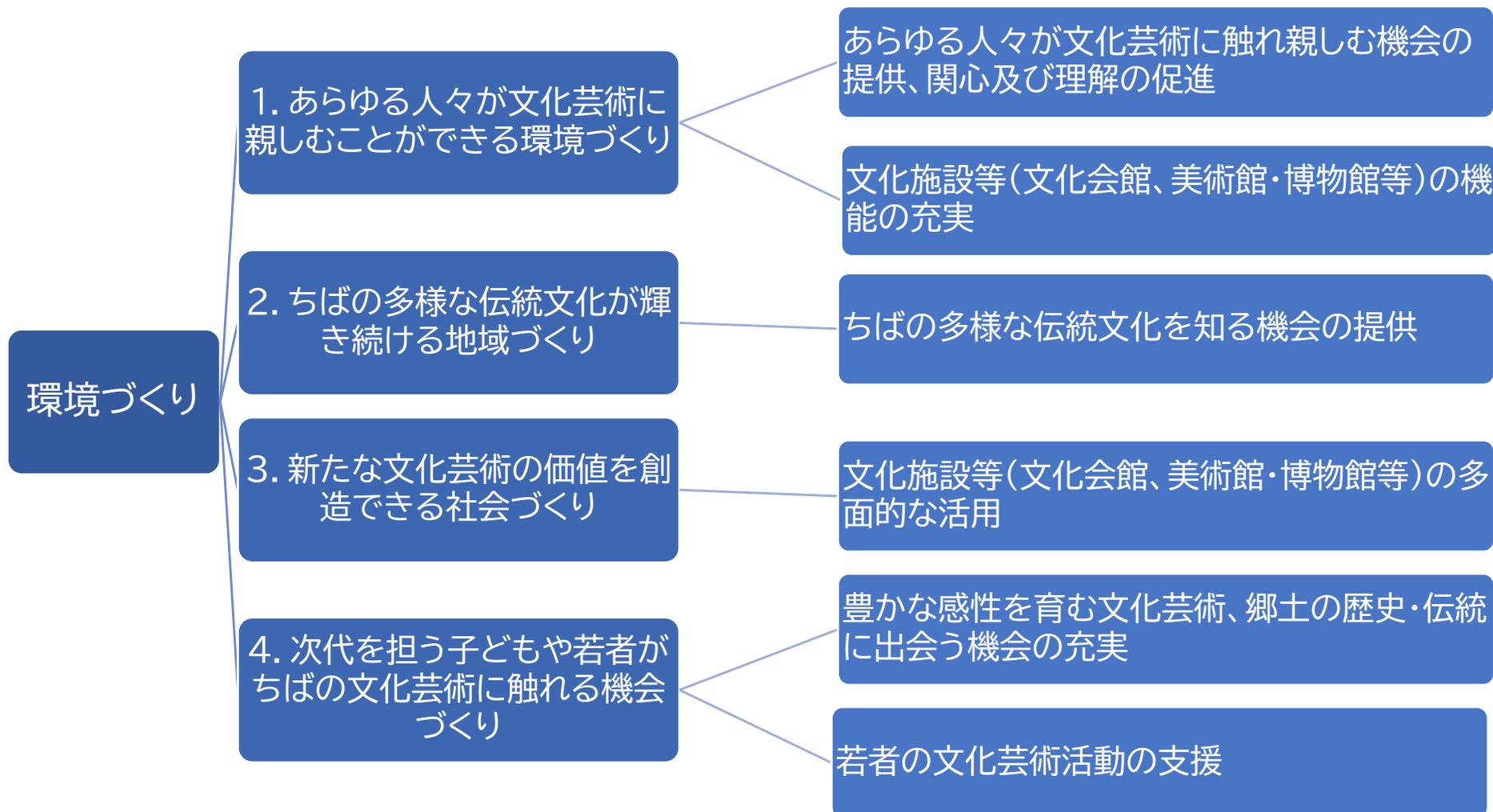
※施策の柱、展開の内容は、現計画のものを記載している（仮置き）

次期計画の考え方

【視点】

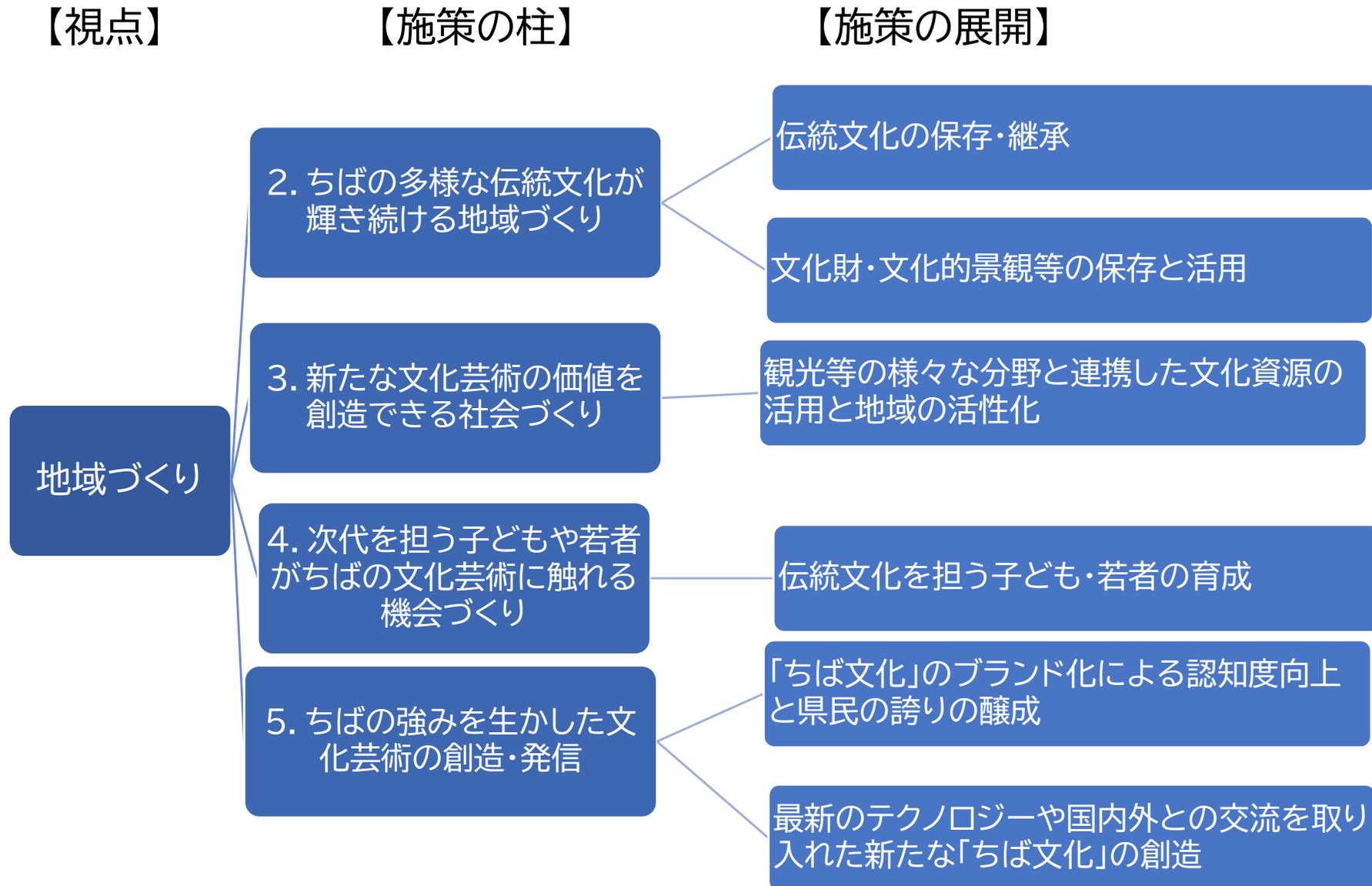
【施策の柱】

【施策の展開】



※施策の柱、展開の内容は、現計画のものを記載している（仮置き）

次期計画の考え方



※施策の柱、展開の内容は、現計画のものを記載している（仮置き）

「次期計画の考え方」に現計画を当てはめた表

施策の柱	視点	施策の展開	主な取組
1 あらゆる人々が文化芸術に親しむこと ができる環境づくり 文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が 尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に 関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞する ことができる環境を整備する	環境づくり	①あらゆる人々が文化芸術に触れ親しむ機会の提供、 関心及び理解の促進	○ あらゆる人々が文化芸術活動に参加し発表できる機会の提供 ○ 文化施設等における公演や展覧会等の充実 ○ 文化施設等以外での鑑賞の機会の提供
	人づくり	②文化芸術活動の担い手やそれを支える人材の育 成・支援・活用	○ 文化芸術活動の担い手やそれを支える人材の育成 ○ 多様な関係者による支援の促進 ○ 文化芸術活動に関わる人材の活用と活動の場の提供
	環境づくり	③文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）の機 能の充実	○ 文化芸術活動拠点としての利用環境の充実 ○ 地域の活動支援体制の充実 ○ 文化施設等における多様な利用者に対応する環境の整備
2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける 地域づくり 県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活 用し、未来に継承する	環境づくり	④ちばの多様な伝統文化を知る機会の 提供	○ 伝統的な文化や芸能に触れる機会の提供 ○ 文化会館、美術館・博物館や学校等における展示、公開事業やSNSの活用等 による情報発信
	人づくり、 地域づくり	⑤伝統文化の保存・継承	○ 伝統文化の保存や後継者育成 ○ 千葉県伝統的工芸品の指定や後継者養成
	地域づくり	⑥文化財・文化的景観等の保存と活用	○ 文化財の保存に配慮した活用の推進 ○ 文化財の調査と普及活動の推進 ○ 文化的景観等の保全と活用の推進
3 新たな文化芸術の価値を創造できる 社会づくり 観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育産 業等、他分野との連携により文化芸術が社会 の様々な場面で輝く機会を創出する	人づくり	⑦様々な関係者による文化芸術の ネットワークの構築	○ 情報交換・意見交換会の開催 ○ 文化芸術団体と企業・NPO・大学等との連携 ○ 文化芸術団体のネットワーク化の推進と活性化
	地域づくり	⑧観光等の様々な分野と連携した文化 資源の活用と地域の活性化	○ 本県固有の歴史・伝統・食文化等を活用した観光地域づくり、国際交流 ○ 日本遺産を活用した地域活性化 ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会により得られた新たな文化資源や ネットワークの活用 ○ 広い野外空間や豊かな自然を活用した事業展開
	環境づくり	⑨文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）の多 面的な活用	○ 芸術家・文化人や文化芸術団体、県民、市町村等との交流・連携の強化 ○ 文化施設等の学校教育や他分野での活用促進
4 次代を担う子どもや若者がちばの 文化芸術に触れる機会づくり 新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者 に文化芸術に触れる機会を創出する	環境づくり	⑩豊かな感性を育む文化芸術、郷土の 歴史・伝統に出会う機会の充実	○ 子どもたちが文化芸術に触れ親しむ機会の提供 ○ 学校教育における文化芸術活動の充実 ○ 学校等と連携した県内の文化財の活用
	環境づくり	⑪若者の文化芸術活動の支援	○ 若者による創造的な文化芸術活動への支援 ○ 若者が文化芸術活動に参加し、自己表現できる機会の提供
	人づくり、 地域づくり	⑫伝統文化を担う子ども・若者の育成	○ 児童生徒に対する伝統文化に触れる機会の提供 ○ 関係団体と連携した今後を担う人材の育成
5 ちばの強みを生かした文化芸術の 創造・発信 ちばの強みを生かした「ちば文化」のブラン ド化と、近年、文化芸術の新たな表現手段や 発信・保存方法として発達してきたテクノロ ジーの導入や、伝統文化及び地域固有の文化 と国内外とのコラボレーションなどにより、 新たな「ちば文化」の創造を進める	地域づくり	⑬「ちば文化」のブランド化による認知度向上と県 民の誇りの醸成	○ 「県民の日」など様々な機会を利用した「ちば文化」の魅力発信 ○ 「日本遺産」や「ちば文化資産」など県内文化資源の活用 ○ ICTの積極的な活用 ○ 文化施設等を文化芸術の創造や情報発信の拠点とするための機能の充実
	地域づくり	⑭最新のテクノロジーや国内外との交流を取り入れ た新たな「ちば文化」の創造	○ 最新のテクノロジーを取り入れた新たな文化芸術の促進 ○ 古くから守り伝えられてきた伝統文化及び地域固有の文化と国内外の他の文化 芸術分野とのコラボレーション等による新たな文化の創造 ○ 国際交流における「ちば文化」の活用

今回御意見を伺いたい論点について

- 今回提示した方向性への意見
- 目指す姿を実現するために、次期計画の中で新たに要素として追加するものはあるか